

日本文化の神髄

東京の国立科学博物館で初めて見たのですが、千年以上の杉を屋久杉と言ひ、千六百年以上の屋久杉の標本を直に見ることがありました。悠久の時を経た風格に圧倒され、年輪幅は1mmもないのです。それが千六百年も重ねられているのです。私は、目にした時ただただ畏敬で言葉もありませんでした。地下に宇宙線の現時点の動く標本や、ガスから星が誕生する経過のコンピュータシミュレーションを目にしたとき。

脳細胞のシナプスのつながり見たようでもあり、「南方熊楠」の菌糸の生成のようでもあり、そのとき、そもそも私達は宇宙の一員であることを深く認識したものです。

ハリウッド映画で見たリチャードギヤの「HATHI」、忠犬「ハチ公」、南極観測隊の権太犬「ジロ」の剥製が展示されていました。上京した折に、一度は訪れべきかと思ひます。同じエリアに、国立博物館もあり教科書で見える国宝級が常設、さりげなく展示されています。今でもお江戸は日本の文化の中心です。外国人に喜ばれる所に、両国の「江戸東京博物館」があります。ミニチュアですが、大名の木造建築や、あの有名な「越後屋」の全景で、当時の権勢が伺えます。また目黒に「東京都庭園美術館」があります。この庭園美術館は、朝香宮「あさのみや」邸として1933年（昭和8年）に建てられた

のです。戦後の一時期、外務大臣・首相公邸、国の迎賓館などとして使われてきました。建設から半世紀後の1983年（昭和58年）10月1日、美術館として新しく生まれかわりました。ここで開催される美術芸術展は常に世界の一級品が良く展示されます。また静かな庭園の中にあり建物と相まって気が漂っています。現在の東京迎賓館は赤坂に

建物を、そのまますごい美術館として公開したものです。

あります。日本のベルサイユとも言われています。毎年、夏に一般公開が予定され、来年は5月頃に内容が発表（内閣府）されるようです。一度は世俗を忘れ、訪れてみたいものです。

生きてる先祖

自分の命と言う「物」が、太古からの遺伝子を継承し続けている事には、誰も異論が無いでしょう。自分が生まれても、過去の命を繋いで呉れた人々の痕跡は、肉体と精神の奥に息づいています。自分の見える肉体だけではなく、この肉体に

関わった遺伝子を繋いだ過去の人々とも共に、今、同時に生きてると考える事は出来ないでしょうか？ 自分の心が現状への感謝に満ちていれば、今、生きている人々の心が安心していれば、過去の縁ある人々も安心する。人類は、遺伝子学的にも原初の二人に収束し到達する事が科学的に判明しています。縁ある者からの救いは、最終的に人類全体への救いに到達します。私欲が跋扈する個人や会社は明日はありません。自業自得。共生が今世紀の要です。

私は、時間があれば旅行先でも土地の美術館へよく行きます。美術館には昔からですが男性よりも女性が圧倒的に多い。しかも友人との場合が多い。美しさを追い求め

きれいな人

る女性の性なのでしょう。中には単独で来館されている方も見受けられ、年代を超え女性の自立した美しさを感じるのには私だけでしょうか。これは依存しない美

しさなのでしょう。現代の社会は、気を抜いて暮らすと、確実に自己中心の人間になります。歴史を超え人類が築き上げた美しさを感じると、私の心が浄化されます。全ての芸術、文化に対して畏敬の念が呼び覚まされます。

間だと思ひます。いつの日か、成層圏内に漂う炭酸ガスとなる身として、きれいだっただかが問われるものだと思います。人は赤ん坊（自己中）から人間（他利）になるのです。そして男も女も、この地上で最高究極の芸術が人

上でどう生きるたかが問われるものだと思います。



(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
 2009年12月11日 (金) N085
地域から明るい未来を作ろう